

平成20年度日本語学校教育研究大会実施要項

1 趣 旨

財団法人日本語教育振興協会維持会員機関に勤務する教職員等を対象として、日本語学校教育のより一層の充実並びに日本語教育機関としての社会的地位の確立を目指し、各機関で展開されている豊かな教育実践を機関を超えて共有することを通して教職員の資質の向上を図る。

2 日 時

1日目	平成20年8月18日(月) 受付	9:10~
	研究協議	10:00~17:45
	交流会	18:00~20:00
2日目	平成20年8月19日(火) 研究協議	10:00~16:35

3 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 セミナーホール

住所：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

03-3467-7201 fax 03-3467-7797

4 参加資格等

- (1) 財団法人日本語教育振興協会の維持会員機関に勤務する教職員、その他関心のある者とする。
- (2) 1教育機関から多数の方が参加していただいて差し支えありません。ただし、定員を超える場合は、お断りする場合がありますのでお含みください。また、両日の参加が難しい場合は、1日だけの参加でも差し支えありません。

5 参加費について

2,000円(資料代等を含む。当日受付で徴収。)

6 交流会について

3,000円(当日受付で徴収。)

7 日程及び内容(別紙参照)

8月18日・月

9:10~9:50	受付
10:00~10:30	趣旨説明、開会あいさつ
10:30~14:30	パネルディスカッション
14:30~16:15	特別講演
16:35~17:45	全体ディスカッション

8月19日・火

10:00~11:15	特定課題研究ラウンドテーブル
11:25~12:00	自由研究発表
12:00~14:00	ポスター発表・デモンストレーション
13:30~16:05	補助事業研究発表
16:05~16:35	まとめ
16:35~	閉会

第 20 回 日本語学校教育研究大会趣旨
大会テーマ「世界の言語教育の潮流と日本語学校の未来
日本語学校と日本語教育スタンダード」

大会委員長 奥田純子（コミュニケーション学院）

本年度の大会は、（財）日本語教育振興協会が日本語教育機関の質的向上を目指し、平成元年より行っている教育研修事業から数え、20 回目の大会となります。

第 20 回の本大会は、平成 18 年度に名称が日本語学校教育研究大会に刷新されてから追いかけてきた大会テーマの締めくくり編として「世界の言語教育の潮流と日本語学校の未来」のパート 3 を開催することといたしました。平成 18 年度の大会では、日本語を含めた外国語教育における世界の動向が俯瞰され、とりわけ欧州評議会の「ヨーロッパ共通参照枠」について特別講演が企画されました。平成 19 年度には、前年度の内容をより深化させ、日本語教育からヨーロッパ共通参照枠、日本語教育スタンダードを考えることが試みられました。第 20 回大会では、これまでの流れを踏まえ、「日本語学校と日本語教育スタンダード」に焦点化し、「日本語教育スタンダードの構想」を中心課題に据えることといたしました。

具体的には、大会第 1 日目にパネル形式で、まず、日本語学校からの発題として、日本語学校の提案する日本語教育スタンダードの試みについて、次に日本語学校以外の機関からの発題として、国際交流基金、国立国語研究所より日本語教育スタンダードを巡る昨今の研究動向についてお話しいただきます。続いて、特別講演を設け、杉谷眞佐子氏（関西大学）に日本語教育スタンダードの構想へ向けた示唆をヨーロッパ共通参照枠とドイツ語プロファイルの表現力育成の観点からお話しいただき、最後の全体ディスカッションにおいて、参加者全員で日本語教育スタンダード構想への議論を深めたいと考えています。

また、大会委員会では、参加者の拡大を図るため、研究の発表枠を増やし、より多くの教育実践の共有化が可能になることを目指しました。プログラムとしては、大会第 2 日目に特定課題研究、補助事業研究の発表をはじめ、バラエティに富んだ自由研究、ポスター、デモンストレーションの発表を予定しています。

日本語学校の最大の強みは、他の追従を許さない豊富な実践現場を持つことです。そこで日々、展開されている豊かな教育実践は、日本語学校の知財です。その知財を機関を超え、広く教職員が共有することで、日本語学校の教育の未来はより一層充実したものとなります。また、それらの知財は、広く日本語教育において活用されてはじめて、公益性という価値を持ちえます。その意味で、日本語教育スタンダードの具体化に日本語学校の知財・知見を活用することは、教育機関としての社会的地位の確立というもう一つの日本語学校の未来を切り開くことにもつながります。

大会委員会では、20 回目となる本大会が、日本語学校の未来を拓く実質的なスタートとなることを願い、以上のように第 20 回日本語学校教育研究大会を企画いたしました。

平成20年度日本語学校教育研究大会日程

日 程 : 平成20年 8月18日(月)～19日(火)

場 所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 セミナーホール

テーマ : 世界の言語教育の潮流と日本語学校の未来

日本語学校と日本語教育スタンダード

1日目 8月18日・月

10:00 - 10:10 (10分)	趣旨説明 大会委員長 奥田純子(コミュニカ学院)	セミナー ホール (300人)
10:10 - 10:30 (20分)	開会あいさつ 協会理事長 佐藤次郎 文部科学省	セミナー ホール
10:30 - 12:10 (100分)	パネルディスカッション「日本語教育スタンダードの構想」 パネル1「日本語教育機関の取り組み」 パネラー 奥田純子(コミュニカ学院) 「日本語学校における日本語教育スタンダード」 江副隆秀(新宿日本語学校) 「日本語データベースから見えてくるもの」 山本弘子(カイ日本語スクール) 「ビジネス日本語と日本語教育スタンダード」 司会 加藤早苗(インターカルト日本語学校)	セミナー ホール
12:10 - 13:30(80分) 昼 食		
13:30 - 14:30 (60分)	パネル2「国際交流基金、国立国語研究所の取り組み」 パネラー 金田智子(国立国語研究所) 「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準」 古川嘉子・島田徳子(国際交流基金) 「国際交流基金日本語教育スタンダード」 司会 加藤早苗	セミナー ホール
14:30 - 16:15 (105分)	特別講演 杉谷眞佐子(関西大学) 「CEFR(ヨーロッパ共通参照枠)とドイツ語プロフィールの表現力育成 の観点 日本語教育への示唆」 司会 加藤早苗	セミナー ホール
16:15 - 16:35(20分) 休 憩		
16:35 - 17:45 (70分)	全体ディスカッション「日本語教育スタンダードの構想をめぐって」	セミナー ホール
18:00 -	交流会「レストラン とき」	

2日目 8月19日・火

<p>10:00 - 11:15 (75分)</p>	<p>< 特定課題研究ラウンドテーブル > 1 「教科書に頼らない授業展開」 バロス造田幸子(専門学校六吹ビジネスカレッジ) 黒崎 誠(ラボ日本語教育研修所) 朝日恵子(石川学園横浜デザイン学院) 木野村邦子(日本語センター)</p>	<p>403 (80)</p>
	<p>2 「教師ポートフォリオ作成 報告」 加藤早苗(インターカルト日本語学校) 江副隆秀(新宿日本語学校) 山本弘子(カイ日本語スクール) 小島真弓(東京外語専門学校) 佐々木綾(静岡日本語教育センター) 島内知彦(中野学園オイスカ開発教育専門学校) 白井義弘(東京中央日本語学院) 森恭子(新宿日本語学校)</p>	<p>405 (80)</p>
<p>11:15 - 11:25 (10分) 休憩</p>		
<p>11:25 - 12:00 (35分)</p>	<p>自由研究発表 1 「日本語力ゼロ期の学習者に対するビジネス日本語プログラムの実践」 西原純子・山崎貴美英 ((財)京都日本語教育センター京都日本語学校) 司会 加藤・白井</p>	<p>セミナー ホール</p>
	<p>自由研究発表 2 「学習者の主体性とは何か～受容性から主体性を捉える～」 深江新太郎(愛和外語学院) 司会 森・朝日</p>	<p>403 (80)</p>
	<p>自由研究発表 3 「非言語トレーニングに向けた新たなアプローチ ～『キャラクター会話』の開発を通して～」 山本弘子・松尾恵美(カイ日本語スクール) 司会 佐々木・木野村</p>	<p>405 (80)</p>
	<p>自由研究発表 4 「初級の発音指導とカタカナ学習の方法」 河野きり子・下川理恵・宮崎太一・平尾陽子・枝村邦明(NILS) 司会 バロス造田・黒崎</p>	<p>409 (80)</p>
	<p>自由研究発表 5 「上級におけるマンガを用いた産出能力を伸ばす授業の試み」 黒崎亜美(ラボ日本語教育研修所) 司会 島内・小島</p>	<p>513 (80)</p>
<p>12:00 - 13:30 (90分) 昼食</p>		
<p>12:00 - 14:00 (120分)</p>	<p>< ポスター発表 > 1 「真に勉学意欲の高い学生を選抜するためのツール開発～カード式口頭日本語能力テスト～」 竹田悦子(コミュニケーション学院) 2 「学生用ハンドブックの作成」 東谷信一郎(カイ日本語スクール) 3 「初級終盤 漢字指導～中国・ベトナム・韓国の学生を対象～」 見尾久美恵(岡山外語学院日本語科)</p>	<p>416 (160)</p>

12:00 - 14:00 (120分)	<p>4 「会話力向上のためのルーティンワーク(実践報告)」 柳田 健・田代麻由加・飯島由佳(国際テクニカルデザイン・自動車専門学校)</p> <p>5 「参加者それぞれが満足できる交流とは ～『日本語チャットルーム』から考える～」 桑野幸子・飯塚住子・渡邊登希(東京外語専門学校)</p> <p>6 「プロセスに注目したディベート授業の可能性～実践の振り返りシート～」 野原ゆかり・吉田潤子・浅野有里(横浜 YMCA 学院専門学校)</p> <p>7 「e-learning 教材『ささかま』開発過程」 押谷祐子・鈴木衣今子・新山あゆみ・内山恵子・大友沙樹・松永淳子 (国際アカデミーランゲージスクール)</p> <p>8 「非漢字圏学習者のための『エリンが挑戦！にほんごできます。』を使った漢字授業の実践」 中山康昭・牧原紀子・岩下智彦(ラボ日本語教育研修所)</p> <p><デモンストレーション> 1 「サウンドリーダー + Dの実演」 鈴木純一 他(新宿日本語学校)</p>	416 (160)
13:30 - 14:45 (75分)	<p>補助研究発表 1 「視覚に訴える漢字教材200モーフィング」 新宿日本語学校 江副隆秀・森恭子 司会 加藤・白井</p>	403 (80)
	<p>補助研究発表 2 「問題を未然に予防する環境作り～ピア・サポート活動の実践とその効果～」 文化外国語専門学校 吉本恵子・深澤道子・唐澤麻理 司会 佐々木・木野村</p>	405 (80)
	<p>補助研究発表 3 「学習者の主体性を重視した中級読解教材の作成」 TII東京日本語研修所 広瀬万里子・北内直子・渡部尚子・市川さゆり 司会 パロス造田・黒崎</p>	409 (80)
14:50 - 16:05 (75分)	<p>補助研究発表 4 「ビジネス日本語のコミュニケーション・スキル向上を目的とした上級学習者向け教材開発」 国際教育振興会日米会話学院日本語研修所 宮崎道子・瀬川由美・紙谷幸子・北村貞幸 司会 島内・小島</p>	403 (80)
	<p>補助研究発表 5 「学習者支援のための人間関係エクササイズの開発」 インターカルト日本語学校 萩原秀樹・海老澤希子・長田恵子・福島真由美 司会 森・朝日</p>	405 (80)
	<p>補助事業研究発表 6 「中国の大学入学等の統一試験及びその成績の日本語学校入学審査における活用について」 共同研究A 日本学生支援機構 大阪日本語教育センター 東京日本語教育センター 徳田裕美子 司会 山本・岩垣</p>	409 (80)
16:05 - 16:35 (30分)	<p>まとめ 司会 田中眞一(大阪 YMCA 学院)</p>	セミナー ホール

なお、日程については当日一部変更になることがあります。御了承ください。